一九九一年九月三日 第三種郵便物承認 毎月（1・2・3・4・5・6・7・8の日）発行 発行人 関西障害者定期刊行物協会・大阪市天王寺区真田山町二-二 東興ビル4F

KSKQ 萌風香 2021 年度 夏号

社会福祉法人萌 広報紙 NO.73 2021.7.16 編集人 社会福祉法人萌 定価 150 円
〒630-0256 奈良県生駒市本町 7-14 ブルームビル2階 ひだまり内 TEL 0743-85-4196

誰もが生き活きと
自分らしく暮らせる
心豊かな社会を
創造します。

社会に向けた発信を！
～職員全体会 メンタルヘルス講演から～

毎年、夏と冬の年 2 回、法人の全体像を把握し、職員としての意思統一を図ることを目的に行っている職員全体会。

「福祉職員のメンタルヘルスからみえてくるもの」というテーマで当法人の理事であり、天理大学人間学部の深谷弘和先生にオンライン講演をお願いしました。

私たちにできることは何か？

福祉現場の職員のメンタルヘルス不調はどうして起きてしまうのでしょうか。背景には個人の責任ではなく、新自由主義政策がありました。

これまで国家が担ってきた福祉をはじめとする事業を民営化し、株式会社など多様な供給体の参入による競争でサービスの質を高める事を目的とした政策です。

この影響で福祉を含む労働環境は悪化、労働問題として捉えられるべきものが「心の健康」として検討される風潮があると深谷先生は指摘します。

この課題は日本だけの問題ではありません。アメリカでも新自由主義により企業が利益を追求した結果、貧富の差が拡大しています。

社会の変化、格差からくる不安が背景にある、成長・他人を認める寛容さを求めたくない幼児化した社会となり、萌の理念である「誰もが生き活きと自分らしく暮らせる心豊かな社会」とは正反対の動きになっています。

萌の法人内のアンケート結果ではソーシャルサポート（上司・同僚の支援）があると感じている職員が多い傾向がみられています。

不調になった職員の自己責任にしないためにも、その人の視点に立って困っていることに寄り添い、社会に発信することで誰もが自分らしく暮らせる社会を目指す必要があります。

「できたら皆さんと意見交換したい」と画面越しからの語り掛け。このような社会情勢だからこそ自分たちができることは何か。

自身のメンタルヘルスを意識することもですが、もう一度萌の理念に立ち返り、より良い社会を考える機会となりました。

四季徒然

社会福祉法人萌
理事長 吉川郁子

萌では、職員と障害のある当事者が県内の精神科病院に訪問し、長く入院している患者さんたちとの交流会を続けています。

暮らしに役立つ情報や病気とうまく付き合いながら自宅で生活する様子をお伝えし、久しぶりの退院を不安に思う方が安心して退院できるよう応援するのが目的です。

しかしコロナ禍で訪問活動はどこも休止に。とある病院では、訪問の代わりに提案した壁新聞も「この時期には患者さんの刺激になる」という理由で掲示が延期になり、とても残念です。

入院が長引くと社会と疎遠になりがちで、退院の希望を見失いかねません。患者さんの退院したいという思いや不安な気持ちに寄り添う活動を、コロナ禍であっても工夫しながら続けていこうと思います。

萌風香は今号からユニバーサル・デザイン（UD）の書体（フォント）を使用しています。UD フォントは可読性や視認性、判読性が高くなるようにデザインされています。誰もが読みやすい広報誌づくりを進めていきます。

生駒エリア			
生活支援ｾﾝﾀｰコスモールいこま	0743-73-7000	地域活動支援ｾﾝﾀｰコスモールいこま	0743-73-0900
ひだまり	0743-85-4196	コミュニティスペースはなな	0743-73-1050
グループホーム楽都	0743-73-0141		

縁が集まる素敵な場

コミュニティスペースはななで作るクッキーやパウンドケーキの納品先の一つ喫茶店「八音（はっとん）」。今回は地域とのつながりとして、八音の店主山本佳子（やまもとよしこ）さんにインタビューしました！

☆ログハウスの古民家カフェ☆

名前の由来は広辞苑の８つの音「金、石、竹、土、木、草、糸、匏（ふくべ）」を奏でる響きから。

普段は建築会社を経営されていますが、残った資材で友人たちの遊び場として喫茶店を作り、今年で 14 年目になります。

「来てくれるみんなにとって少しでもゆっくりとくつろげる場であってほしい」という思いから、道路上に看板を出していないそうです。

商品についても感想やアドバイスをもらいながら、新商品の開発をしています。特にパウンドケーキが人気で納品後、数日で売り切れるそうです。

地域活動支援センターコスモールいこまの利用者にお店を紹介してもらい、山本さんに納品の相談した時「以前福祉施設のパンやクッキーを置いていたことがあり、施設の皆さんのためになればいいな。来てくれる人が喜ぶものを置ければ！」と快く承諾してくれました。

入口近くに設置させてもらってます

ほっと一息♪

また「これも何かの縁。そこからつながりが広がればいい」と縁を大事にしている山本さんでした。

萌としても、地域のつながりを大事にしていきたいと考えています。地域の方とのつながりがあることで、精神障害のことを知る機会となり、当事者の方が暮らしやすいまちづくりに発展します。

製菓を通して、地域の人とのつながりをはななとしても大事にしながら活動により一層力を入れていきたいと思います。

新たな方法で家族に発信

生駒エリアでは、利用者家族懇談会（事業所紹介・家族交流・相談など）を毎年実施していました。

2020 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、集まっての開催ができませんでした。

事業所のことを知ってもらいたいという思いから、今回は冊子にし、職員紹介・コロナ対策・各所の情報などを掲載した「生駒新聞」を届けることになりました。

情報を安心材料に

家族からは「自分の子供が社会で生きていけるか不安もあったが、本当に困った時に何らかの支援を得られると思うと気持ちが楽になった」などの感想をいただいています。

今後もコロナの動向によって、集まっての実施は難しいかもしれませんが、ご家族の不安等を取り除ける機会を、さらに検討していきます。

郡　山　エ　リ　ア			
生活支援ｾﾝﾀｰふらっと	0743-54-8112	地域活動支援ｾﾝﾀｰふらっと	0743-54-3977
ふれあい工房	0743-54-6701	彩食キッチンBon	0743-58-5572
グループホームもえぎ館	0743-85-4112		

精神科訪問看護？
～他分野と繋がる勉強会～

リモートの画面　左の中段が森脇さん

地域で安心して生活することを支えるために、郡山エリアでは様々な専門分野の方とネットワークを築くことを目標の一つに掲げています。

その一環として、市内に新設された訪問看護事業所「こころの訪問看護ステーションひなた」(以下ひなた)と合同の勉強会を行っています。

第一回目は昨年の秋。ひなたから訪問看護師３人を招き、福祉サービスの説明と事業所の見学会を行いました。

第二回目は、リモート勉強会。ひなたの森脇崇所長から「精神科訪問看護」の実践を学びました。

精神科訪問看護は医療支援ではあるが、利用者が病状と付き合いながら自分らしく生活できるよう、しっかりコミュニケーションを取ることが主体。信頼関係を築くことが大切であること。

精神科に特化した訪問看護は特殊性があり独特なケア方法が必要であるため、高い専門性が求められること。

ときには本人に対する支援にとどまらず家族や関係機関に対しての支援も。本人の病状や生活の状況を理解してもらえるよう、様々な方法で説明を行います。リモートではありますが、熱量を感じるお話を聞きました。

第三回目以降の企画も進めています。誰もが地域で安心して暮らすために、きめ細かく丈夫なネットワークを構築する。もっと多くの分野の方々とつながっていくことが必要です。

地域の風、舞い込む
～ボランティアとの交流に期待～

地域活動支援センターふらっとの活動にボランティアさんが加わっています。

このボランティアさんは大和郡山市社会福祉協議会が年に一回実施している「精神疾患について正しく理解し、地域で寄り添って支援するボランティアの養成講座」(こころのサポーター講座)の受講者です。

事前の交流会で、普段のプログラム活動や七夕など季節のイベントのときに、食事作りやスポーツ、バルーンアートといったボランティアさんの特技を活かしてみては?などの意見交換を行いました。

さっそく６月には５人のボランティアが、ミーティング・クリーンキャンペーン（下記事参照）・かたろうず(体験発表の練習をする語りのグループ)・ホットケーキレクに一緒に参加。緊張も少しずつ解け、笑顔が増えています。

一緒にワイワイホットケーキづくり♪

これからどんな地域の風が舞い込み、交流が進むのか…ワクワクしています。

みんなで取り組むクリーンキャンペーン

毎年行われる地域一斉清掃に今年も郡山エリアの各事業所が参加しました。

暑い中でしたが、丁寧に

施設周辺をそれぞれの時間帯、やり方でお掃除。「僕も手伝います」と慣れている参加者も多く、草引きは軍手をして根元から。溝の掃除はデッキブラシで泥の汚れをこすり落とすなど工夫しました。

自分たちが住む地域がきれいになることにやりがいや達成感があり、通りがかった人の温かい励ましに、地域とのつながりを感じられる機会になっています。

西　和　エ　リ　ア			
生活支援ｾﾝﾀｰぽると・ベル	0745-43-5541	地域活動支援ｾﾝﾀｰまーぶる	0745-75-6545
らそら	0745-70-1577	グループホーム彩友館	0745-43-9333

ご近所さんからの依頼

らそらでは今年に入り、新たな作業を始めています。それは「みっちゃん人形の下ごしらえセット」づくりです。

さて、みっちゃん人形とは？

こんなかわいい布人形なんです。

50 ㎝程の大きさ

話しは、らそらのご近所にある少人数制託児保育所「おうち保育室ひっしぱっち」から。子どもの間でとてもかわいがられている人形があり、それを商品化したいので下地作りを手伝ってもらえませんか、と声がかかりました。

人形作り？そんなことができるかな？と話しを聞いてみると、人形の手足になる布や毛糸の裁断で、手芸ではなく工作に近いとのこと。おそるおそる、でも「これがかわいい人形になるんやなぁ」と想像しながら、楽しく作業を始めました。

下地となる糸を切ります

工程表を作ったり、静養室が布で占拠されたりと、試行錯誤しながらかわいい人形作りに携わっています。地域の方から頼ってもらえ、利用者とともに子どもに喜んでもらえるものが作れたら、これ以上嬉しいことはありません。

「知りたい」に応えたい

「精神障害について学びたい」そんな声が増えてきています。

生活支援センターぽると・ベルの永石淳哉所長は６月８日、ケアマネージャー向けの研修で精神障害について説明しました。

オンラインにも慣れてきました

主催は河合町の包括支援センターで、22 人の参加がありました。

研修では、心の病気と脳の病気の違いや、関り方が難しい方への対応について説明。事前に聞きたいことも募り、応えました。

参加者からは、行動の結果に焦点を当てていたが、プロセスに目を向ける必要があることがわかったとの意見がありました。

みんなでピクニック♪

まーぶるでは、外出プログラムが月に１回あります。行ってみたいけど一人ではなかなかいけない場所にみんなで行ってみようというプログラムで、行先はミーティングで決めています。

最近はコロナの影響もあり外出する機会も減っていましたが、屋外なら安心して行けそう！ということでお弁当を持って馬見丘陵公園へ。ピクニックに行ってきました。

当日は天気も良く、ワクワクしながらまーぶるを出発。公園内を散歩したり、まったり会話したり、写真を撮ったり。それぞれの過ごし方で楽しみました。

公園内はバラが咲き、池には１メートル程の大きい鯉もいました！

昼食はらそら弁当をテイクアウト

参加者からは「汗をいっぱいかいた」「久しぶりに外で緑を見ることができてよかった」などの感想がありました。これからも安心して楽しめる方法を職員・利用者共に模索していきたいと思います。

高田エリア			
生活支援ｾﾝﾀｰなっつ	0745-23-7214	地域活動支援ｾﾝﾀｰなっつ	0745-23-8105
マインドホーム高田	0745-23-8072	おかわり	0745-23-5625
えいぶる	0745-52-5752	あっとほーむ香芝	0745-44-8023

より復帰しやすい職場を目指して

先月、男性が育児休業を取得しやすくなる制度を定めた育児・介護休業法の改正が決まり、産休・育休への関心が高まっています。

今回は最近育休から復帰したあっとほーむ香芝 堀川有所長と地域活動支援センターなっつ 龍満明日香さんに育児休業の現状についてインタビューしました。

★コロナ禍での育休でしたがどのような影響がありましたか？

堀川：非常事態宣言が発令された数日後に復帰することが決まっており、コロナがどういったものか、これからどうなるかもわからない中で子どもを保育園に預ける不安がありました。

龍満：育休期間中は保健師の訪問時間も短縮していたり本来利用できる機関も休業。買い物もあまり行かない方がいい風潮もあったので家の中でずっと子どもと二人っきりという時間があり孤独感も増しました。

★育休前後で考えていたことや印象に残っていることを教えてください。

龍満：産休前は長期のお休みで迷惑をかけると感じていましたが、産休を取った他の職員から「確かに職場に負担をかけたと思うけど、その分今は働ける状況なので恩返しをしたい」という話を聞いて、そういう前向きな考え方があるのかと救われました。やっぱり子育ての経験者が多いのは大きいですね。先輩ママさんの職員とご飯や研修に誘っていただいたりしました。

堀川：私も結構メールももらいました。産院まで来てくれて抱っこしてくれた職員もいたり。休み中は本当にありがたかったですね。総務の職員が萌風香を手紙添えて送ってくれたり、最近どうですかと聞いてくれたりして、休んでいる間の萌の情報を得ていました。

★育休明けだけでなく休み中から他の職員からのフォローがあったんですね。育休が明けてからはいかがでしたか？

堀川：一般的には戻りにくいと言われていますが、萌は人の繋がりがあり戻りやすかったです。

龍満：私は最近戻ってきたところなんですけど、先輩ママさんが多かったので「おかえり！」と言ってもらえたり家事と育児の両立のアドバイスもいただいたので、自分としてはありがたい環境だと思っています。

堀川：萌の同僚や上司は理解がすごくあるんですよ。育休を取って復帰後は大変だろうしフォロー入るよとか言ってもらえて。子供が熱が出しても絶対休めないなんて事はないし調整できている。一方でその穴は一緒に働いている人にかたよっていってしまいがち。休む事情が起きたときに迷惑しかかけてないといった思いになりやすくなります。

龍満：その点では助かったなと思ってる部分があって、復帰後上司がもちろん子どもの緊急時はそれを優先しようって最初に言ってくれていて、上司が休みの日に私が休まないといけない事情ができた時はどうするかなど、事前にある程度のラインを決めていてくれていたのはありがたかった。「自分がやる行為は全部迷惑じゃないか」と感じてその判断はできなかったと思うので、上司が提案してくれたのは助かりました。

堀川：自分が上司になったときには負担をかけられているとは思いませんが、休みにくいだろうという気持ちは理解できるんですよ。そこの乖離（かいり）を埋めていきたいと思います。だからこうなった時はこう対処するっていうフローチャートみたいなものはあると安心です。

育休期間中を振り返る堀川さん（左）と龍満さん（右）

橿　原　エ　リ　ア			
生活支援ｾﾝﾀｰぴあぽ～と	0744-24-2020	地域活動支援ｾﾝﾀｰぴあぽ～と	0744-24-2070
生活支援ｾﾝﾀｰいろは	0744-32-7753	ひ な た 舎	0744-32-7745
Ｐｉｔ八木	0744-21-5666	グループホーム南	0744-24-2050

はじめて作りました♪

新型コロナの影響もあり、立てた予定がなかなか実行にうつせてない日々。そんな中、グループホームのメゾン高田では、５ 月ミーティングで入居者から「調理教室をしたいです」との声が。

ボリュームたっぷりで大満足！

普段は、外に食べに行く事が多く、自分達で何かを作るのは初めての試み。

事前にみんなで何を作るか相談。悩んだ末に決まったメニューはナポリタンと野菜サラダ。

調理教室当日。ドキドキしながら材料の買い出しから、野菜のカット、麺茹で、炒める、盛り付けるとこまで自分たちの手で。慣れた手つきの人もいれば、はじめてで苦戦する人も。

そして、でき上がったのは、とてもおいしそうなナポリタン。芳ばしい香りがあたりに漂います。野菜サラダも色とりどりで盛り付け、スープも、おいしくでき上がりました。

入居者からは、「おいしかった！」「自分でも作れるようになりたい」「思っていたよりも難しかった」「また機会があったらカレーも作ってみたい」など声があがりました。

このような状況下だからこそ、「普段はしないこと」「やらないこと」にぜひ、チャレンジしていくのもいいですね。

スタッフにもサクラ咲く
～国家試験にダブル合格～

前号の2021年度春号、橿原紙面掲載のひなた舎の記事に続く“嬉しいニュース”が、ぴあぽ～とでもありました。

そのニュースとは職員の山口美知さんが「精神保健福祉士」、非常勤職員の奥山和美さんが「介護福祉士」の国家試験に合格したというものです。

２人は“ワーキングマザー”。これまでも山口さんは社会福祉士、奥山さんは介護職員初任者研修と、それぞれの学びと資格を活かして働いてきました。

萌での業務を通じ、「より専門性を深めたい！」と、コロナ渦に入る少し前に奮起。通信制の専門学校に入学し、カリキュラムをコツコツこなしながら、勉学に励んできました。

職場・家庭・勉強のバランスを保ちながらの日々で、なおかつコロナ渦という環境下は苦労も多くありました。合格発表を自宅のパソコンで子どもたちとドキドキしながら見たという山口さんは「家族とぴあぽ～とのメンバーの皆さんのサポートも大きかった」と話します。

あとに続け！と刺激を受ける職員もいます。コロナ渦であろうとなかろうと日々の研鑽が必要となるのが福祉の現場です。手前味噌で恐縮ですが、互いに高め合いながら過ごしている萌職員の一コマでした。

手元に届いた登録証

マネジメント力の向上を
～萌 管理職研修～

2020 年度、部長職 7 人を対象とした 3 年間の管理職研修を始めました。社会福祉専門職としての専門能力と管理監督職としての管理マネジメント力の向上が目的です。

講師は、大阪府保健所職員などを対象にしたスーパーバイズ研修を実施されている、桃山学院大学教授の辻井誠人さんです。

この研修では、スーパービジョン(※注参照)を用いて、言語化する力を得ること、お互いの思いや考えを理解し、共通点と相違点を認識することに取り組んでいます。

部長は社会福祉専門援助職としての事業活動のみならず、管理職として人事・労務・経営に関するマネジメントの役割も期待されますが、管理職としての経験が乏しく、日々難しさを感じています。

研修で管理職としてのマネジメント力を向上させていくことにより、法人の組織の体制づくりを強化していくことがねらいです。

また、研修のしくみを通して、部長だけでなく、職員全体のスキルアップにつながるものです。

部長が成長しスキルアップすることで、それぞれの人がその人のもつ力を最大限に発揮できる職場環境、組織づくりを目指しています。

※スーパービジョンとは

社会福祉施設や機関などにおいて、専門職を養成する過程です。より質の高いソーシャルワーク実践を目指しています。

【実施状況】

①	講師から法人職員への聞き取り
②	講師からのガイダンス
③～⑤	部長による若手職員への育成実践 (スーパービジョン)
⑥～⑦	部長の実践の振り返り (グループスーパービジョン)
⑧	講師から若手職員への聞き取り・集い
⑨	講師との振り返り

届いてますか？ 新型コロナワクチン接種券

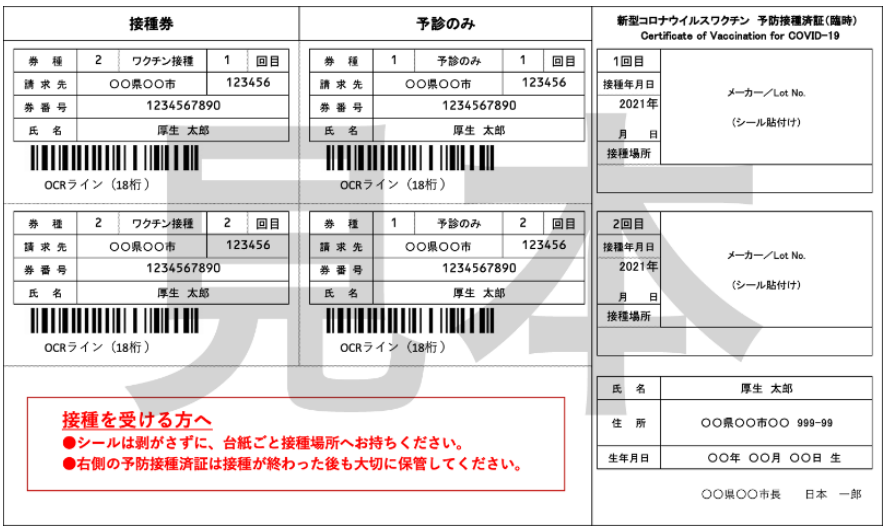
ワクチン接種券（クーポン券）はお手元に届いていますか？日々変化する接種状況の中、64 歳以下の基礎疾患のある方のワクチン優先接種が始まっています。

国の示す基礎疾患には精神障害者保健福祉手帳、療育手帳をお持ちの方、自立支援医療（精神通院医療）において「重度かつ継続」に該当する人で、お住いの市町村によってはすでに接種券の発送が済んでいるところ、優先接種の事前申請が終了したところなどがあります。

接種の予約方法も市町村によって異なります。ワクチン接種券（クーポン券）と同封されている説明をご確認ください。

まだ届いていない。何かよくわからない。受けるか悩んでいる。手続きがむずかしいなど不安なことがありましたら、利用している事業所職員にお尋ねください。

接種券（クーポン券）の見本です。シールになっています。市町村の封筒に接種券、予診票、説明書、接種が受けられる医療機関一覧などが入っています。



さくらんぼ便り

ホームヘルプステーションさくらんぼ
0743-54-0800

おかえりなさい

長期入院から自宅での一人暮らしに戻られた方への支援は、柔軟性と機動力が必要です。

笑顔で利用者さんに接しながら、頭と体はフル回転。・・・今日の晩御飯はどうする？・・・寝具は夏物？・・・まずはトイレと浴室の掃除。トイレットペーパーは足りるかな？・・・

退院したその日から始まる生活を、限られた時間内で整えていくため、サービス提供責任者とヘルパーが一緒に訪問して、手分けして作業を行うこともあります。

「食事や買い物、ゴミの出し方とか、心配やなぁ」そんな利用者さんの「どうしよう」を一つひとつ、ご本人と相談しながら「こうしてみよう」に変えていき、その人らしい「いい感じ」の暮らし方を一緒に創っていきます。

「我が家はええなぁ」を聞けるのが楽しみです。

ライク通信

なら西和障害者就業・生活支援センターライク
0743-85-7702

県内就ポツ新任者研修
～交流を通じて「つながり」を作る～

奈良県内の障害者就業・生活支援センター（就ポツ）は新任職員を対象に「奈良県障害者就業・生活支援センター連絡等強化交流会」を開催しました。

2021 年 5 月 19 日に行った第 1 回目は、新型コロナウイルス感染症対策の観点から Web 会議システムを利用しての実施となりました。

支援の中での不安や悩みを共有し、各々が行っている工夫を出し合い、「つながり」の大切さを再認識しました。

今年度の新任者研修は隔月ごとの実施を予定しています。今後は経験を重ねる中での変化や成長をテーマに話し合いを行いながら、互いに切磋琢磨できる関係性を目指していきます。

Moe Mentalhealth Messageboard

★萌風香の購読★

萌風香は年 4 回 1500 部ずつの発行です。皆様のお手元に届いた後、萌のサービス利用者以外の方で「引越しして住所がかわった（住所変更）」「次からは送ってもらわなくても結構です（購読中止）」という場合、お手数ですが必ず萌風香編集部ひだまり（0743-85-4196）までご一報くださいますようよろしくお願いします。

▽萌 後援会からのご案内

萌後援会は「社会福祉法人萌」の活動を支援していただける皆様を募集しております。

主な目的は萌ﾌｪｽﾀをはじめとした事業の支援や寄付を行なっています。
会費の納入及び寄付の受付口座は
郵便振替 社会福祉法人萌後援会
00920-4-221824
後援会事務局（萌総務部内）
0743-54-0821（大東）

▽ハートフルこおりやま
精神障害者の社会参加をすすめる会

「障がいのあるなしに関わらず、誰もが住みやすい街づくり」をすすめる当会では、会の趣旨に賛同頂き、活動に協力して下さる会員さん・ボランティアさんを大募集しています!!年会費は1口 500 円（2 口からお願いします）です。
連絡先：会事務局 ふらっと内
0743-54-3977（桑原）

ピアスマイルいこま電話相談
相談専用電話
080-6225-0708
日 程 ： 毎月第 4 日曜日
14 時～16 時（最終受付 15 時半）
対 象 ： 精神障がいのある人
費 用 ： 通話料がかかります
※当事者がお話を聴きます。内容は守秘します。
連絡先：生駒市精神障がいピアサポートグループ
ピアスマイルいこま
（0743-73-0900 地活コスモールいこま）

▽地域家族会の情報

新型コロナウイルスの影響で、各例会の開催が中止・延期など変更されています。
詳しくは、下記の各団体・お問い合わせ先にご確認ください。

詳細は まほろば会（NPO 奈良県精神障害者家族会連合会）
TEL:090-9213-2731 FAX:0742-51-5506 https://nijiironokaze.jimdo.com/

名称	月例会	時間	場所	問い合わせ先	電話番号
さくら会（大和郡山市周辺）	第 3 日曜日	13:30～	三の丸会館	会長関野	0743-54-6375
ひだまり会（生駒市周辺）	第 3 土曜日	13:30～	市民活動推進センターららポート	会長上村京子	0743-78-0885
西和家族会（西和 7 町周辺）	第 4 土曜日	13:30～	王寺町やわらぎ会館	西村	0745-74-6203
すみれ会（大和高田市周辺）	第 3 日曜日	13:30～	大和高田市中央公民館	三島	090-9889-7984
のぞみ会（橿原市周辺）	第 2 日曜日	13:30～	県心身障害者福祉センター	ぴあぽ～と	0744-24-2020

一九九一年九月三日 第三種郵便物承認 毎月（1・2・3・4・5・6・7・8の日）発行 発行人 関西障害者定期刊行物協会・大阪市天王寺区真田山町二-二 東興ビル4F